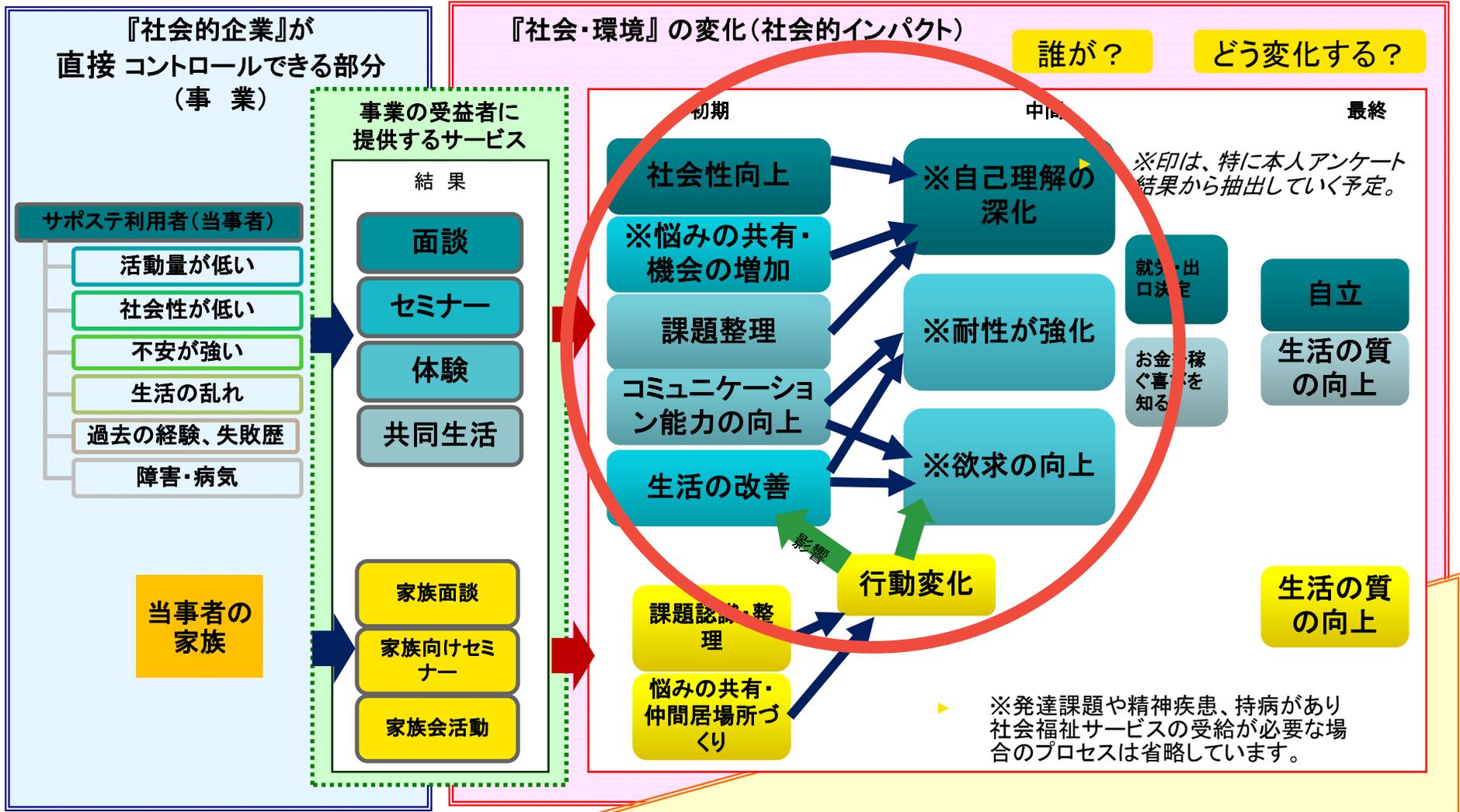


株式会社K2インターナショナルジャパン

資料1



社会的企業名	評価対象事業	評価目的	ステイクホルダー
<ul style="list-style-type: none"> 株式会社K2インターナショナルジャパン 	<ul style="list-style-type: none"> 湘南横浜若者サポートステーション K2合宿型プログラム/K2家族会 	<ul style="list-style-type: none"> 組織内に成果を共有 自治体、支援者に対し「若者の自立支援における親の関与」の必要性を説明 	<ul style="list-style-type: none"> 支援対象者 支援対象者の家族 事業者



株式会社K2インターナショナルジャパン

1. 支援対象者データ(クラウド入力)

対象者	平成27年度湘南横浜若者サポートステーション登録者(137名)
実施期間	10月中を目途(支援者の入力作業を完了)
項目の概要	ロジックモデルの初期～中間アウトカムに設定した各項目について第三者からの視点で整理 ①属性情報(性別、生年月日、障害者手帳の有無等) ②インテーク時情報(外出機会、生活リズム、家族関係、社会スキル等) ③経過記録情報(インテーク時と同様の項目)
備考	セールフォースのクラウドシステムに支援者が情報を入力

2. 支援対象者アンケート

対象者	平成27年度湘南横浜若者サポートステーション登録者(69名)
実施期間	11月中に実査
質問項目の概要	ロジックモデルの初期～中間アウトカムに設定した各項目について、本人主観でしか分かり得ない成果を確認 全21問から構成(相談の対象者、対人関係不安、外出頻度、身だしなみ、自己肯定感、就きたい職業イメージの有無等)
備考	アンケート調査票は支援者から手渡しで配布・回収 支援対象者データと紐付を実施

▶ 1. 支援対象者データからの分析(支援者が入力)

1. 全体的に支援前後での差分は出ている

- ・ ⇒想定内だが、支援の成果を確認

2. 全体的に家族面談を実施している人の方が、変化の度合いが大きい

- ・ ⇒より詳細なクロス集計は今後の課題。確認できたことは、下記の通り。
- ・ ・発達障害あり、もしくは疑いのある人に対しては、家族面談を多く実施している
- ・ ・メンタルは逆に、家族面談を実施できていない
- ・ ・自己肯定感や自己理解、生活リズムに関しては、家族面談実施者の方がより顕著に改善がみられた。

▶ 2. アンケート調査からの分析（支援対象者本人への実施、回収）

1. 概ね全体的に支援前後での差分は出ている

- ・ ⇒・クロス集計までは出来ていないので、家族支援の有無との関連性はまだ未確認。また、支援データとの紐付けも未完了。興味深かった点は下記の通り。
- ・ ・外出頻度、範囲は顕著に改善傾向にある。
- ・ ・逆に、対人関係、働くことへの不安に関しては、ほとんど変化が見られなかった。「日常生活で落ち込む事があるか」の設問も同様。
- ・ ・「家族に支援されていると思うか」の設問には支援前後で変化はほぼないものの、「家族関係は良好か」の設問には前後で改善傾向が強く出ている。

2. 支援期間中の類似の支援は、7割が受けていなかった（死荷重）

3. 前後の変化は、K2の支援を受けたことがきっかけだったかどうかという設問は、約8割が「そう思う」または「とてもそう思う」だった。（寄与度）

▶ 3. 今後の調査について

1. 支援対象者データとアンケート結果を紐付け、あらゆる面からのクロス集計を行う

- ・ ⇒特に確認したいのは、家族面談の有無による変化。どの項目にあらわれてくるかなど。
- ・ ⇒合わせて、「困難度」(発達障害やメンタル、過去の失敗歴などを換算した数値)とも組み合わせ、現場での対象者へのアセスメントに活かすデータを集めて可視化したい

2. 「家族」を主体においたロジックモデルの検討⇒アンケート調査の実施

3. 調査結果の現場共有と意見交換、実務への反映

4. ステイクホルダーの再確認。どのように活用していくのか。